



Intermediate Lesson

Once Upon a Time!

7

| | |
|----------------|---|
| Formal Kanji | 2 |
| Formal Kana | 3 |
| English | 4 |
| Vocabulary | 5 |
| Grammar Points | 5 |

Kanji

むかしむかし、あるところに、貧乏だけど心優しいおじいさんとおばあさんがいました。

ある年の大晦日のことです。

おじいさんとおばあさんは二人でかさを作りました。

それを町へ持って行って売り、お正月のおもちを買うつもりです。

「かさは五つもあるから、もちぐらい買えるだろう。」

「おねがいしますね。それから、今夜は雪になりますから、気をつけて下さいよ。」

」

おじいさんは五つのかさを持って出かけました。

家を出てまもなく、雪が降ってきました。

雪はだんだん激しくなったので、おじいさんはせっせと道を急ぎました。

村はずれまで来ると、お地蔵様が六つならんで立っています。

お地蔵様の頭にも肩にも、雪が積もっています。

これを見たおじいさんは、そのまま通り過ぎることが出来ませんでした。

「お地蔵様。雪が降って寒かろうな。せめて、このかさをかぶってください。」

おじいさんはお地蔵様に、売るつもりのかさをかぶせてやりました。

でも、お地蔵様は六つなのにかさは五つしかありません。

そこでおじいさんは、自分のかさを脱いで、最後のお地蔵様にかぶせてやりました。

家へ帰ると、おばあさんがびっくりして言いました。

「まあまあ、ずいぶん早かったですねえ。それに、おじいさんのかさはどうしました？」

おじいさんはお地蔵様のことを話してやりました。

「まあまあ、それはよいことをしましたねえ。おもちなんてなくてもいいですよ。」

」

おばあさんはニコニコして言いました。

その夜、夜中だと言うのにふしぎな歌が聞こえてきました。

♪おじいさんの家はどこだ。

♪かさのお礼を届けに来たぞ。

♪おじいさんの家はどこだ。

♪かさのお礼を届けに来たぞ。

歌声はどんどん近づいて、とうとうおじいさんの家の前まで来ると、ズシー

ン！と、何か

を置く音がして、そのまま消えてしまいました。

おじいさんがそっと戸を開けてみると、おじいさんのあげたかさをかぶったお地蔵様の後

ろ姿が見えました。

そして家の前には、お正月用のおもちやごちそうが、山のように置いてありました

。

Kana

むかしむかし、あるところに、びんぼうだけどころやさしいおじいさんとおばあさんが

いました。

あるとしのおおみそかのことです。

おじいさんとおばあさんはふたりでかさをつくりました。

それをまちへもって行ってうり、おしょうがつのおもちをかうつもりです。

「かさはいつつもあるから、もちぐらいかえるだろう。」

「おねがいしますね。それから、こんやはゆきになりますから、きをつけてくださいよ。」

おじいさんはいつつのかさをもってでかけました。

いえをでてまもなく、ゆきがふってきました。

ゆきはだんだんはげしくなったので、おじいさんはせつせとみちをいそぎました。

むらはずれまでくると、おじぞうさまがむつつならんでたっています。

おじぞうさまのあたまにもかたにも、ゆきがつもっています。

これをみたおじいさんは、そのままとおりすぎることはできませんでした。

「おじぞうさま。ゆきがふってさむかろうな。せめて、このかさをかぶってください。」

おじいさんはおじぞうさまに、うるつもりのかさをかぶせてやりました。

でも、おじぞうさまはむつつなのにかさはいつつしかありません。

そこでおじいさんは、じぶんのかさをぬいで、さいごのおじぞうさまにかぶせてやりました。

た。

いえへかえると、おばあさんがびっくりしていいました。

「まあまあ、ずいぶんはやかったですねえ。それに、おじいさんのかさはどうしました？」

おじいさんは、おじぞうさまのことをはなしてやりました。

「まあまあ、それはよいことをしましたねえ。おもちなんてなくてもいいですよ。」

」

おばあさんはニコニコしていいました。

そのよる、よなかだというのにふしぎなうたがきこえてきました。

♪じいさんのいえはどこだ。

♪かさのおれいとどけにきたぞ。

♪じいさんのいえはどこだ。

♪かさのおれいとどけにきたぞ。

うたごえはどんどんちかづいて、とうとうおじいさんのいえのまえまでくると、ズ

シーン！

と、なにかをおくおとがして、そのままきえてしまいました。

おじいさんがそっととをあけてみると、おじいさんのあげたかさをかぶったおじぞうさま

のうしろすがたがみえました。

そしていえのまえには、おしょうがつようのおもちやごちそうが、やまのようにおいてあ

りました。

English

Once upon a time, there lived a poor but kind old man and his wife. On one New Year's Eve something happened. The both of them, the old man and woman, made bamboo hats. They intended to buy New Year's sticky rice cakes by bringing them to town and selling them.

"As there are 5 bamboo hats, we should be able to buy sticky rice cakes."

"Please do so. After that, please be careful, as it will snow tonight."

The old man left with 5 hats, and as soon as the old man left the house it started to snow. As the snow fall gradually became stronger, the old man hurried along the street. As he came to the end of the village, there were 6 Jizousama lined up. Snow had accumulated on the head and shoulders of the Jizousama. Upon seeing this, the old man could not continue on like this.

"Jizousama. It's cold and snow is falling. Please wear this bamboo hat. "

The old man put the bamboo hats he was going to sell on the Jizousama.

However, there were only 5 hats, and 6 Jizousama. The old man then took off his own hat and placed it on the last Jizousama.

When he returned home, his wife said, "she was surprised.

"Well, well. That was quite fast. And, what happened to the bamboo hats?"

The old man spoke about the Jizousama. The old woman smiled and said,

"Well, well. That was a good thing you did. We don't need sticky rice cakes." Later that night, in the middle of the night they heard a strange noise.

"Where is that old man's house?

We came to pay gratitude for the bamboo hats.

Where is that old man's house?

We came to pay gratitude for the bamboo hats."

The singing voices drew closer, and when they finally came to the old man's house, quiet! Then there was a sound of someone placing something,

and just like that vanished.

When the old man opened the door, he could see the disappearing outlines of the last Jizousama he gave the bamboo hats to.

And in front of the house was a huge stack of sticky rice cakes and food.

Vocabulary

| Kanji | Kana | Romaji | English |
|-------|--------|----------------|--|
| お餅 | おもち | omochi | rice cakes |
| 積もる | つもる | tsumoru | to pile up |
| 激しい | はげしい | hageshii | violent, intense |
| 村外れ | むらはずれ | Murahazure | edge of town, outskirts of a village |
| 昔話 | むかしばなし | mukashibanashi | legend, folk story |
| 地藏 | じそう | jizou | stone idol placed near street to protect travelers |
| 大晦日 | おおみそか | ōmisoka | New Year's Eve |
| ニコニコ | ニコニコ | nikoniko | smiling from ear to ear |
| せっせと | せっせと | sesseto | diligently, assiduously |
| せめて | せめて | semete | at least, at most |
| とうとう | とうとう | tōtō | finally, at last |
| そっと | そっと | sotto | softly, gently, quietly, secretly, |
| 後ろ姿 | うしろすがた | ushirosugata | retreating figure, appearance from behind |

Grammar Points

1) つもり

We can use this construction to express that we are planning to do something. This kind of sentence is created by adding つもり after a verb in its dictionary form.



For example:

今夜は映画を観るつもり(です)

こんやはえいがをみるつもり(です)

2) Adjectival phrases qualifying nouns

The general pattern for these kind of sentences is:

[3.[1.subject of relative clause][2.verb]][4.subject][5.predicate]

[3.[1.沖縄で][2.食べた]][4.タコライスは][5.おいしかった]

The Taco-rice that I ate in Okinawa was good

[3.[1.先週][2.勉強した]][4.単語を][5.覚えていない]

I don't remember the words that I learned last week.

Note: In the noun clause, の is often used as the subject marker.

